

Y03a 地域の真正資源を活用した「新科学教育ネットワーク構想」に関する考察

縣 秀彦 (国立天文台)

地域の大学等が所有する研究・教育資源を有効活用する新しい「科学教育ネットワーク」機能を日本各地に設置することによって、先導的推進者をインフォーマルに育成していくプランについて提案する。理数教育の課題の一つである「先進科学技術の先導的推進者の育成」に関しては、全地球的な視野を養う上で、地球・宇宙・環境教育領域における先進的な科学技術教育の実施が急務である。新たな For Excellence の視点を初等中等高等教育の仕組みのなかに取り入れる上で、地球・宇宙・環境教育領域の初等中等高等教育課程での役割の再検討とその具体的な教育システムの開発を早急に実施することが強く望まれている。しかし、学習指導要領に則したフォーマル教育において、特に地球・宇宙・環境分野（第2分野）の抜本的な学習カリキュラムの改訂は、現状として困難である。そこで、学校教育を補完するインフォーマル教育を通じて卓越的な科学教育を国内で広範に実践するための手立てについて考察する。地域の大学・研究機関や博物館、企業等には、君が天文学者になる4日間やジュニアセッションなどのような卓越的なインフォーマル教育を実施する上で利用可能な人的資源と研究資源が潜在している。広く先進科学技術の先導的推進者をインフォーマルに育成していくためには、地域の科学教育促進のハブとなる新科学教育センター（機能であり箱物ではないことに注意）を設置するとともに、第4次科学技術基本計画や地域の科学コミュニケーション・ネットワーク、ポスドク問題、地方主権等と連動した新規の科学教育政策の実現が望まれる。